

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2025年3月11日(火)19:30～

会場：添島歯科クリニック研修室

- 一般講演抄録 2 -

重度歯周炎へのアプローチ～その治療法の変遷～

小坪義博 こつぼ歯科医院 福岡県久留米市北野町乙丸 77-1

■抄録

歯周病に罹患している患者に対して TBI、スケーリング、ルートプレーニングなどの歯周基本治療（薬物療法も含む）が施され、患者自身のプラークコントロールも良好であっても、深い（少なくとも 4mm 以上）骨縁下ポケットが残っている場合や不揃いな歯槽骨線が存在する場合、歯周外科処置が必要となる。とくにその歯牙に補綴処置が行われる場合はなおさらであり、歯槽骨の形態を整えることにより、メンテナンスしやすい歯周環境を作ることが大事である。歯槽骨の形態修正を行うにあたり、欠損部の搔爬と廊清だけをする場合と、自家骨または骨補填材の移植、遮蔽膜の使用、成長因子の応用などの再生治療も近年取り入れられるようになってきている。今回、重度歯周炎に対するアプローチとして、私自身の 30 年前の症例を通して治療法を考察してみた。

インプラント治療、審美治療、矯正治療などの治療法においても、歯牙が残存している場合には、炎症のコントロールが命題となることは言うまでもないことであろう。